



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

PCR検査の特性と診断の限界

総合診療歯科 診療科長 長谷川 篤司



日々のニュースで「PCR検査」という言葉を聞かない日は少なく、医療における検査件数増加の賛否にこれほど関心が集まるのは稀有な状況であると感じています。

コロナウイルスに対するPCR検査の診断特性を検証した論文は発表されていませんが、何人かの専門家は「感度は70%程度、特異度は99%程度」と推定しています。感度とは、「感染者のうち、PCR検査で陽性となる者の割合」であり、特異度とは、「非感染者のうち、PCR検査で陰性となる者の割合」です。大事なことは、PCR検査の診断特性として「感染者なのにPCR検査で陰性となる者、いわゆる偽陰性者」と「非感染者なのにPCR検査で陽性となる者、いわゆる偽陽性者」という「誤判定」が必ず発生してしまうという事実です。

極端ですがこんな仮説があります。もし東京都民、約1395万人全員にPCR検査を実施できたとすると誤判定の規模はどうなるでしょう。都民のコロナ感染率を仮に都民人口の1%と少なめに見積もった場合にも、4万人以上の偽陰性者が「(感染者であるにもかかわらず)非感染者であると自覚して、自身の治療のタイミングを逸してしまうだけでなく、行動制限を守らずに感染を拡大する可能性が危惧されます。一方、13万人以上の偽陽性者が「(非感染者であるにもかかわらず)感染者と誤認されて」限りのある病院の感染病床を占領して、長期間の行動制限や不当な扱いを受ける可能性すら危惧されます。

PCR検査対応件数が不十分なために多大な不利益を被った多くの方がおいでのことは紛れもない事実であり、「PCR検査」や近日中に薬事承認されるであろう「抗原簡易検査キット」の整備は喫緊の必須事項ですが、(検査の特性と診断の限界があることを理解して)検査の結果に惑わされることなく、国民全員が引き続き危機感をもって「身近な行動への配慮」を遵守することもまた必須事項であると考えています。

医療業務の縮小などでご不自由をおかけしておりますが、病院スタッフ一同、コロナ収束まで危機感をもって感染拡大の防止、院内感染の防止に努めて参りますので皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京都のコロナ感染率を都民人口の1%、PCR検査特性を感度70%、特異度99%と仮定

PCR検査の結果		コロナ感染		検査陽性者全数
		あり(感染者)	なし(非感染者)	
陽性	感度の70%	感染者の70%	非感染者の1%	検査陰性者全数
陰性	感度の30%	感染者の30%	非感染者の99%	
		感染者の全数(都民の1%)	非感染者の全数(都民の99%)	都民全数

都民全数を約1,395万人(13,951,636人:令和2.1.1「東京都の人口推計」の概要)とする

PCR検査の結果		コロナ感染		検査陽性者全数
		あり(感染者)	なし(非感染者)	
陽性	偽陰性者数	97,650	138,105	検査陰性者全数
陰性	偽陽性者数	41,850	13,672,395	
		139,500(都民の1%)	13,810,500(都民の99%)	13,950,000(都民全数)

参考:1)神奈川県医師会HP「PCR検査の特性と限界」、2)南郷栄秀HP「新型コロナウイルスPCR検査は国民全員に行うべきなのか」

総合診療歯科の業務

- ①紹介状を持たずに初診で来院された患者さんの適切な専門科への紹介
- ②一般歯科治療で受診された患者さんへの総合的な治療および管理

総合診療歯科での治療

一般歯科治療で受診される患者さんがいくつもの診療科を移動することなく、当診療科内のみで効率的な治療を受けていただけることを考えています。高度な専門治療が必要な場合にも、経験豊富な客員教授の指導を含めフットワーク軽く、専門診療科と連携してスムーズに対応させて頂きたいと思っています。そのために当科では、ほぼすべての患者さんのお口の中の状況に対してカンファレンス(症例検討)を実施しており、情報交換を通じて「より良い治療方針」を作成します。カンファレンスの主役でもある研修医は、グループ診療という形で診察・診療の一部を担当させていただいています。

総合診療歯科での治療方針

従来の歯科治療では、歯科疾患の対象を重度の感染症と捉え、病んだ部分を除去・摘出し、人工物により損なわれた機能・構造を回復させ、「上手に歯を削ってきれいに詰め物をする」という、アートのイメージをもっている方が多いと思います。

当科で対象としている主な歯科疾患は「むし歯と歯周病」ですが、ご存知の通りどちらも生活習慣病です。生活習慣病では、治療や口腔の管理において患者さんの協力は不可欠です。私たちは良質の診療を提供するだけでなく、十分な診察、リスク検査(唾液の質や量、う蝕や歯周病関連細菌の量の測定など)を取り入れ、患者さんが治療や予防に積極的に参加できるように、自分の「お口の健康」に関心をもっていただくための“手掛かり”となる資料を提供できるように努力をしていきたいと

考えています。

リスク検査の内容は歯の健康の指標として、むし歯菌の数、唾液の酸性度、むし歯になりやすい環境から唾液がもとに戻す緩衝能、歯ぐきの健康の指標として、唾液中の白血球の数、タンパク質の量、口腔の清潔度の指標として、唾液中のアンモニアの量を用いています。さらに検査が必要だと思えた時には、自然にしている時の唾液の量、物を食べている時の唾液の出る量や物を食べる力(咀嚼力)も調べることもあります。



リスク検査の結果例

また、一旦治療が終了した後も、定期的な診察、検査、フォローアップにより、“お口の健康”を生涯にわたってサポートする家庭医でありたいと考えています。

全ての方に同じ予防・治療が必要だと思いませんか？ 私達の口はみんなが同じではないと考えています。個人の抵抗力、口の中に住む細菌の種類や数、そして私達の生活習慣、全てが違います。私達は“口は健康への入り口”と考え、みなさんが、“よりおいしく食べ、楽しく咬んで食べ、幸せにくらす”ことを目標としています。



総合診療歯科医局員

新任のご挨拶

内科クリニック 診療科長 木庭 新治



2020年4月1日より内科クリニックの診療科長を拝命しました木庭新治と申します。

私は、1988年昭和大学を卒業後、昭和大学病院を中心に総合内科専門医、循環器専門医、老年病専門医として循環器疾患の診療・研究・教育に従事してきました。また多職種チームによる包括的治療とそ

の人材育成に携わってきました。

からだの健康とともに歯の健康と嚥下機能は、人間が楽しく生き、食生活を豊かにすると同時に、健康長寿に必要不可欠です。

歯科病院は、さまざまな障害を有する患者さんや高齢化とともに重複疾患を有する患者さんの歯科治療を担っています。このような患者さんが安心して歯科治療が受けられるように対応します。よろしく願いいたします。

この度、相澤師長の後任として、3月1日付で大学病院より異動してまいりました、小西 悦子と申します。

新任のご挨拶

看護部 師長 小西 悦子



初めての学内異動が今までに経験したことがない歯科領域ということで、戸惑いは隠せませんでした。病院長をはじめ、歯科医師、歯科衛生士、事務、看護師の方々の暖かく

アットホームな雰囲気にならされている毎日です。

異動して2か月、看護部の課題も見えてきました。多職種の方達とのコミュニケーションを大事にしながら、新たに発展できるよう尽力をつくしていきたいと思っています。

就任当初より、コロナウイルス対策で日々格闘中ですが、今できる最大の予防策を常に考え、徹底したディフェンスで排除し、歯科病院のワンチームの力をウイルスに見せつけてやりましょう！

この度、4月1日付で昭和大学歯科病院事務長を拝命いたしました、倉地夏樹と申します。

新任のご挨拶

事務長 倉地 夏樹



着任後、すぐに新型コロナウイルスの感染拡大により、東京都からは緊急事態措置が発表され、当院も感染拡大防止、院内感染防止に努めて、運営しています。

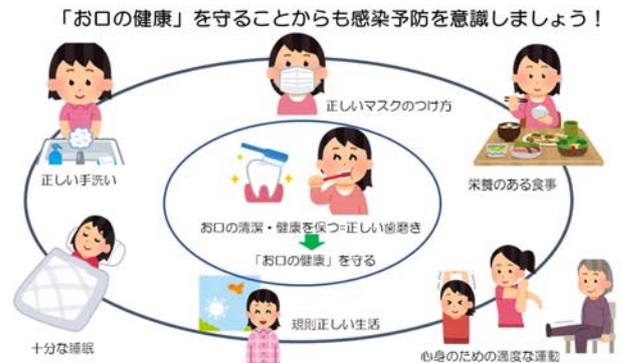
院内では病院長を中心に病院幹部、感染管理室が安心・安全な医療を提供できるよう対策を考え、職員が一丸となって、この人類史上初の世界的危機を乗り越えようと努力しています。

今こそ職員一人一人がチームとして、最大限の力を発揮する時です。私も自分らしさを貫き、真正面からこの困難に立ち向かっていく所存です。今後とも何卒よろしく願いいたします。

歯と口の健康週間

6月4日～6月10日は「歯と口の健康週間」です。2020年度の標語は「咲かそうよ 笑顔の花を歯みがきで」です。歯とお口の健康保持・増進はむし歯や歯周病の予防のみならず、表情が豊かになり、いつまでもおいしく食べることに繋がります。昨今の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行から手洗い・うがい等の感染予防対策を通して皆さんの健康管理の意識がより高まっていることと思います。感染予防のためには、その他に正しいマスクのつけ方・規則正しい生活・栄養のある食事・正しい歯磨き・十分な睡眠・心身のための適度な運動が推奨されています。ぜひこの機会に「お口の健康」の視点からも感染予防を意識し、全身の健康保持・増進を図りましょう。そのためには定期的な受診でむし歯や歯周病を予防し早期発見・早期治療をすること、正しいセルフケアの方法を身につけることが大切になります。健やかな日常生活には自然と笑顔も溢れます。当院ではお口の中の状態に合わせたブラッシング方法の提案や専門的な機械を使った歯のクリーニングな

ど、皆さんの健康保持・増進のサポートをさせていただきます。詳しくは歯科医師・歯科衛生士までお尋ねください。 歯科衛生室 草間 里織



厚生労働省 日本歯科医師会ホームページより引用

来院時の注意点について

新型コロナウイルス感染症拡大による院内感染を防止し、大学病院としての機能を維持するため、以下の症状のある患者さまの受け入れを制限させていただきます。

- 1)「37.5℃以上の熱」や「咳」のある方
- 2)現在、同居する人に発熱・咳などの症状がある方
- 3)過去14日以内に、海外渡航の履歴がある方
- 4)過去14日以内に、海外から帰国した人との濃厚接触歴がある方
- 5)匂いや味が分かりにくい症状がある方

6)新型コロナウイルス感染症症状があり、体調不良が継続している

症状のない方につきましても感染症の予防のため、ご来院の際は必ず

- ・マスクを着用してください。
- ・入口にて手指の消毒をしてください。
- ・受付にて検温および問診票の記入をお願いします。

新型コロナウイルス感染症による院内感染抑制のため、本運用についてご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

編集後記

緊急事態宣言が解除され、多くの方が日常の生活を取り戻す一歩を踏み出したところかと思えます。当院でも、院内感染のない歯科病院として、通常診療に戻す努力をしております。治療が必要とされる患者さんには、治療前にイソジンでの洗口をお願いしています。ご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(K.I)



サーモカメラによる検温を実施中